



発行責任者 病院長 岡野友宏
編集責任者 広報委員長 山本松男
本号編集担当 宮澤 康

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151

ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

新年のご挨拶

病院長 岡野 友宏

皆様には素晴らしい新春をお迎えになったことと存じます。平成 20 年の新年にあたり、ご挨拶申し上げます。

私たち昭和大学歯科病院の務め、それはいうまでもなく、口と歯の病気を予防し、診断・治療をし、失われた機能を回復すること、その診療と研究を通じてあらゆる人の健康に貢献することです。将来を担う歯科医師の卵や、専門歯科医師を目指す若い先生方への臨床教育もその中で行われます。いずれも世界に伍して一級でなくてはなりません、そのためには日々の切磋琢磨が求められます。質の高い診療と教育の両立を可能にする環境づくりに病院として邁進する所存です。

本院は設立して 30 年を経過しました。そのため老朽化した部分がありますが、少しでも患者さんに気持ちよく受診していただき、また診療スタッフが働きやすい環境をとということで、これまでも様々な手当てをしてきました。本年は3階を中心とした診療室の改装を行います。また目にはつきにくいのですが、病院のインフラを整備します。工事中はご迷惑がかかるかと思いますが、よろしくご理解の程、お願い申し上げます。

本院は保険医療機関ですので、保険診療はルールに沿って行われています。診療の質を上げるためにも、またその先の臨床研究のためにも、今一度、診療録を見直し充実を図ります。

そうすることによってはじめて、近い将来の電子カルテも展望できます。さらに私たちが患者さんの合意の下で行った診療に対する正当な報酬についても正確を期していき

ましよう。「コンプライアンス」は単に法令遵守と訳されますが、医療機関におけるそれは非常に広い領域を包含し、倫理面も含めると哲学的でもあります。診療録やコンプライアンスについて引き続き学習機会を提供しつつ、具体的な改善を図ります。

地域の歯科医院や一般医院との連携を強めていきます。大学附属病院は専門診療を行う場所であり、そこを通じて地域社会に貢献することができます。私たちの診療技術も連携によって高めることができます。そのために実効性の高い連携のシステムを構築する予定です。また病院でお手伝いを頂けるボランティアの方の募集や有志による院内コンサートも予定しています。これも地域に根ざした病院としての務めでもあります。

いつものように課題は多いのですが、ひとつひとつ丁寧に対処していく所存です。何卒、ご理解のほど、重ねてお願い申し上げます。



歯科保存科 久光 久 教授



歯周病は成人の大部分が罹患する病気で、歯を失う大きな原因です。歯周病は、「磨き残し」の歯垢、デンタルプラークが引き起こす炎症によって、知らず知らずのうちに歯を

支える骨が溶けてしまう病気です。歯の動揺(グラグラ)、出血、排膿、病的な移動などで気がつきませんが、治療が手遅れであることもあり、やっかいな病気です。また「歯磨き」は慣れ親しんだ言葉ですが、歯周病で重要なのは「歯と歯肉の境目」の磨き残しです。「毎日気をつけて磨いているから大丈夫」と思いがちですが、なかなか完全には歯肉との境目の歯垢を除去できず、患者さまにとっても歯科医師や歯科衛生士にとっても「やっかいな」問題です。

一方で、毎日のように耳にするようになったメタボリック症候群。「メタボ、メタボ」と流行語にさえなってきましたが、肥満、高脂血症(高コレステロール血症)、高血糖症(糖尿病)、高血圧などが複合した状態で、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞などが起きやすく、また重症化しやすいと考えられる大変怖い状態です。

最近の歯科の話題の一つに、歯周病が糖尿病や心臓血管疾患(心筋梗塞や脳梗塞)とも関係しているというものがあります(図1)。上で説明をしましたように、歯周病は自覚症状の乏しい病気で、歯肉の内側(歯周ポケット内面)は炎症による潰瘍の状態です。程度にもよりますが、炎症マーカーや歯垢の正体である口腔細菌の病原性成分、場合によっては細菌そのものが全身の血流に入っていく、糖尿病や心臓血管疾患にも影響をあたえるという報告が相次いでいます。

糖尿病に罹患している場合では歯周病がひどくなることが以前より知られていましたが、歯周病が重度の場合には、炎症マーカー(IL-1, TNF- α など)による影響で糖尿病が治りにくくなること(インスリン抵抗性)が考え

られるようになってきました。心筋梗塞や脳梗塞は、頸部大動脈の動脈硬化部位で血栓が形成され、心臓や脳に流されて血管が詰まってしまうことで引き起こされる病気ですが、アテローム性動脈硬化(粥腫形成)の進行には、体の中の感染症が悪さをしていると考えられています。感染症とは肺炎(クラミジアなど)や胃潰瘍(ピロリ菌)などが考えられてきましたが、歯周病原細菌の感染症である歯周病も、危険因子として関係があるのではないかと関心が高まりつつあります。歯周病は糖尿病や心臓血管疾患の原因ではありませんが、進行や重症度に関係する危険因子(リスクファクター)であろうと考えられ、多くの研究が世界中で行われています。

歯周病と全身の病気との関係は、仕組みが完全に解明されたわけではありませんが、歯・口腔という体の一部が健康になることは、体の全身にとっても良いことであることに間違いはありません。歯科医療はその字の通り口や歯の病気を治す仕事ですが、健康な生活を送るためにも役立つことを願っています。

生活習慣病・全身疾患と歯周病



図1:生活習慣病と歯周病の関わり
今回は点線で囲った部分について説明しました。

夜間想定火災訓練

さる、平成19年11月29日(木) 15:00より歯科病院2階病棟西側で火災が発生したという想定で、火災確認、初期消火、情報伝達、避難誘導までの一連の訓練が行われました。

実施後の評価では概ね良好な評価をいただき、訓練参加者の防災意識の向上が図られました。



院内感染予防対策に関する講習会開催報告

院内感染予防対策に関する講習会を下記の通り開催いたしました。時期的にタイムリーであるインフルエンザ、ノロウイルスの感染対策や一人一人の予防的な取り組みが大切であることが示され、病院職員の内感染に対する意識が高められました。

開催日時:平成19年12月4日(火) 18:00~19:30

場 所:昭和大学歯科病院 第1・第2臨床講堂

内 容:『院内感染対策について』

①院内感染対策実践チームの役割

②院内感染対策の基礎

講 師:昭和大学病院院内感染対策実践チーム
九島巳樹先生、山本武史先生

受 講 者:教職員181名



保険診療に関する講習会を開催報告

適切な保険診療に対する取り組みを強化するため、保険診療に関する講習会を下記の通り開催いたしました。

開催日時:平成19年12月21日(金) 15:00~17:00

場 所:昭和大学歯科病院 第1・第2臨床講堂

演 題:「保険診療の理解のために」

講 師:東京都社会保険事務局 指導医療官 小池正夫 先生・医療事務指導官 本間秋則 先生

受 講 者:教職員115名

1月・2月の講習会開催予定

日 時:1月22日(火) 18:00~19:00

場 所:昭和大学歯科病院 第1・第2臨床講堂

演 題:「病院にけるリスクマネジメント」
(個人情報保護法・医療安全対策)

講 師:(株)ススケン カスタマサポート部
コンサルティング課 向山紀夫 氏

対 象:全教職員

日 時:2月6日(水) 18:00~19:00

場 所:昭和大学歯科病院 第1・第2臨床講堂

演 題:「患者さんの声を介してコンプライアンスを
考えてみよう」

講 師:日本歯科医療管理学会
理事長 高津茂樹 先生

対 象:全教職員

ご意見・ご要望について

院内に授乳できる
場所はありませんか？



4階
小児歯科・障害者歯科外来に
「授乳室」を設けました。
お気軽にご利用ください。

※平成 19 年 12 月患者さんから寄せられたお声より



歯科保存科 久光 久 教授

歯科病院だよりでは
写真・エッセイなどを
募集しております。
みなさまの作品を編
集担当までメールに
てお寄せください。

chie11@ofc.showa-u.ac.jp

歯科衛生士室 柴田由美 衛生士



休診のお知らせ

社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構による試験実施のため 2 月 23 日(土)を休診といたします。
ご迷惑をおかけいたしますがご理解の程、お願いいたします。

編集後記

水沢腹堅～さわみず、こおりつめる～ 過日、広告冊子で読んだ七十二候の当該コラムに「ある時は雨。海。雲。ある時は汗。涙。自由自在でいながら、すべての生命体に欠かせない存在、水。また、形を変えるだけでなく、ある時は汚れを落としてくれて、ある時は温めてくれて、ある時は熱を冷ましてくれる。」とありました。さて、少々世知からい話ですが、当院の歯科用ユニット、空調設備の運転等にも不可欠なこの水を得るために係る費用はどのくらいなのでしょう？ 昨年実績では、月平均約 280 万円(因みに都内某銭湯の約 7 倍額)だそうです。こんなちょっとした“気づき”から、十二支の先頭である「子年」原点に立ちかえり、教職員ひとりひとりが小回りを利かせて院内諸事に気配り心配りし、患者さんはじめ地域医療のニーズに応えられる“水”の如く欠かせない病院でありたいと思います。(C.A 記)